

案件名 武豊町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）

募集期間 令和4年1月4日～令和4年1月31日

担当課名 環境課

番号	件数	意見の概要	町としての考え方
1	1	①実行計画の中に武豊火力発電所のCO2削減については問題にしていない。責任は環境省、愛知県地球温暖化対策課、武豊町環境課のそれぞれにあると思われる。	①本町としては、特定の事業者の事業活動を本計画で取りあげることは想定していません。事業者においてはP26に示すとおり、脱炭素化に向けた戦略のもとで様々な対策を進めているところであり、本町としても、国・県・事業者と連携を図りながら、脱炭素化に向けた取組を進めていきます。また、企業の脱炭素経営の推進を図るため、大規模排出事業者との情報共有の仕組みを構築していくこととしており、その中で必要に応じた働きかけも行っていく予定です。 なお、火力発電の燃料使用に伴うCO2排出量は、生産者（火力発電所）ではなく、その電力を使用する消費者からの排出として各部門に計上されます。
	2	②別曾池公園の水素発電所近辺に107万kwの高圧送電塔を作ってもらいたい。金額負担はJERAにお願いするのが基本と考える。	②町が直接実施すべき事業ではないと考えます。再生可能エネルギーの導入を進めていく上で、参考とさせていただきます。

3	<p>③CO2 排出量は国、県、町でデジタルで共有しないとゼロカーボンシティは作られない。</p>	<p>③現在、国において市町村別CO2 排出量の推計結果が毎年度公表されており、本町においてもそれら推計値を活用しています。また、令和3年5月に成立した改正地球温暖化対策の推進に関する法律により、大規模排出事業者に関する排出量情報がオープンデータ化されることになりました。</p>
4	<p>④武豊火力発電所リプレース計画は正式な入札ではなく、自社入札で進められた。競争入札ではない。</p>	<p>④武豊火力発電所のリプレースについて、民間事業者の事業活動の中で手続きが進められており、本町には権限がないものと考えます。</p>
5	<p>⑤ゼロカーボンシティの目標が不明確である。向上のステップを計画書に表記すべきと考える。</p>	<p>⑤本計画は2050年のゼロカーボンシティ実現を展望しながら、そこに向けたステップとして、2030年の削減目標44%を掲げ、その実現のために必要な施策を進めていきます。</p>
6	<p>⑥カーボンニュートラルの対策として、LNGタンカーを増産しているが、これでは真の対策にならない</p>	<p>⑥LNG タンカーの増産については、民間事業者の事業活動によるものであり、本町には権限がないものと考えます。脱炭素化への移行に向けては、あらゆる主体が本町の環境のため取り</p>

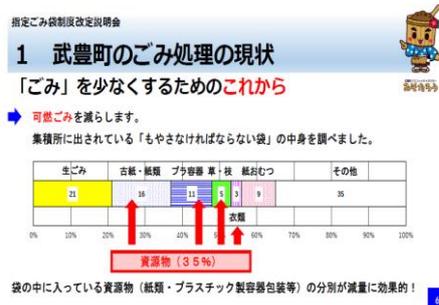
			<p>組むべき課題であると考えており、今後一層、事業者との情報共有を進めていきます。</p>
--	--	--	--

2	<p>30年武豊町に住み、昨年2021年武豊町に家を建てるとともに出産も経験しました。仕事中心の生活から家事育児中心の生活に変化すると、テレビや雑誌等で紹介されるSDGsについて考える機会も多くあります。SDGsが取り上げられている場面を見ていると、2030年はどのような生活をしているだろうかと考えます。と同時に、昨今の異常気象による農業や漁業に関する被害、熱中症指数が高く外遊びや部活が制限される学校現場など子どもの将来に対する心配は尽きません。家庭で何かできることはないだろうか。“広報たけとよ”を見ていたとき、武豊町地球温暖化対策実行計画というのがあることを知りました。武豊町がどのような取り組みをしているのか興味が湧き、計画内容など拝見いたしました。本町の温室効果ガス排出量の76%が産業部門ということには愕然としました。家庭部門の7%はいくら各家庭が努力しても無意味なのではと感じてしまうほどです。しかしながら、私たち町民にできることは、小さな努力の積み重ねしかありません。家庭向けの取り組み啓発内容を見てみると、家庭エコ診断、緑のカーテン、環境家計簿というものでした。そのほかに、世帯が増えていく武豊町でより取り組みやすく、取り組みたいと思うような活動はないかを考えたとき、どの家庭でもほぼ必ず発生してしまう生ごみの活用法はないかと考えました。分別回収が始まった頃は正直面倒だと思っていたのですが、今ではプラスチックごみや紙ゴミの分別が当たり前になり、エコステーションへ行くと多くの車が駐まっています。一人一人の取り組みは小さくても、プラスチックや紙ごみ等の分別が広まったように生ごみの分別も広められないでし</p>	
---	---	--

	<p>ようか。</p> <p>1 <b>提案</b> 《生ごみの分別回収》</p> <p>昨年2021年に生ごみ処理機(生ごみ減量乾燥機パリパリキュー)を購入し、生ごみ堆肥化容器等設置補助金の制度を活用させていただきました。今までそのような補助金制度があるとは知りませんでしたので、とてもありがたい制度だと感じるとともに、どれぐらい認知され活用されているのかも気になりました。生ごみ処理での悩みといえば、まず臭うこと、台所シンク排水溝のぬめり等の不衛生さ、雑菌や虫の発生などがあると思います。</p> <p>親族の家では生ごみを臭わないようにパン袋に入れ、一定以上たまと外に配置してある生ごみ処理機に投入し堆肥化するというを行っていました。が、実際にその方法を行ってみるとパン袋でも臭いを完全に防ぐことはできませんし、虫もどこからか発生します。たまった生ごみを外へ持っていくのも不便です。冷凍庫で凍らす方法も試しましたが、臭いは防ぐことができるものの冷凍庫内の場所をとり、出し入れの際の衛生面も気になりました。</p> <p>今回購入した生ごみ処理機は、室内で使用できる上に臭いもほぼ気にならず、生ごみの量を5分の1まで乾燥減量させるものでした。そして有機質肥料にも活用できます。パリパリになった生ごみを見て、今の技術に感心しました。もちろん私が購入したもの以外の製品も様々な機能のある商品が多くあると思います。</p> <p>デメリットとしては、購入費はもちろん、電気代やメンテナンス費がかかることだと思います。そのため一概にどの家庭も生ごみ</p>	<p>家庭から出されるごみについては、令和4年4月から、半田市、常滑市、南知多町、美浜町、武豊町の2市3町で構成される広域南部広域環境組合の「知多南部広域環境センター」において焼却を行い、蒸気のエネルギーでタービンを動かし発電を行う予定です。生ごみの分別回収及び、堆肥やエネルギーとしての活用については、国・県や他市町の動向を注視しながら調査、研究を進めていきます。また、本町ではごみ減量化対策として、家庭等における生ごみの堆肥化を進めるため、「生ごみ堆肥化容器等設置補助金」を交付しており、今後も普及啓発を進めていきます。</p>
--	--	--

処理機を購入すべきとは言えません。

先日NHKの番組「世界はほしいモノにあふれている」を観ました。ハワイSPの中で紹介されていたのは生分解性プラスチックのごみ袋です。そのごみ袋は犬の糞を入れるためのものでした。犬の糞を入れるということは臭わないのでしょうか。子育てをする中で、子どものおむつ入れのバケツの蓋を開けたときの臭いから、生ごみやおむつの臭いに敏感になっていますが、臭いも漏らさず環境にも良い袋があるのならば、活用したいと思いました。調べてみたところ生分解性プラスチックにも様々な種類があるようで、堆肥化できるものやそうでないもの、本当に環境に良いのか疑問視されるものもあるようです。しかし堆肥化できて臭いも防ぐことができる生分解性プラスチックの袋があったら家庭の生ごみ回収にも役立つのではないのでしょうか。(もうすでに生分解性プラスチックを使用しているのであれば、無知で申し訳ないです)



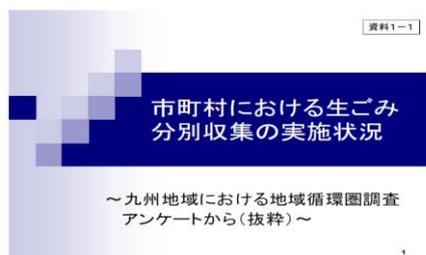
ちなみに「ごみ処理有料化」の住民説明会説明資料を拝見いたしました。家庭ごみで燃やさなければならないごみの中の生ごみの割合を見てみると、21%とありました。生ごみは水分を多く含んでいるため、燃やすのにも多くの燃料が必要と聞きます。これが少

しでも0%に近くできるのならば、ごみの量を大きく減少させることができるのではないのでしょうか。さらにその生ごみが堆肥化でき、他の植物を育てられたら、温暖化対策に少しは貢献できるのではないのでしょうか。またはバイオマス発電を行い、新しいエネルギー資源とできないのでしょうか。

ごみ減量の目標には①1人1日当たりのごみ量539g→440g ②1人1日当たりの「もやさなければならぬごみ」量509g→420gとありました。現時点で分別回収に協力的でない方に協力を求めるよりも、現時点で分別回収に協力的な方に生ごみの分別を広める方がごみ減量目標に近づけるように思います。

生ごみ回収に力を入れている自治体はないのか調べてみました。インターネットで検索するのみでも、多くの自治体の活動例がありました。

北九州での平成21年度のアンケート調査結果もありました。約10年前の調査ですので、その後はどのように分別回収が進んでいるのかは分かりませんが、具体例が多くありました。



① 全域で実施している市町村での具体的な内容

具体的な内容	実施市町村
・10戸から20戸程度で収集場所を定め、週2回バケツ設置方式により収集。	福良
・生ごみ収集場所の袋で回収している。	長峰
・回収頻度(回)について各家庭からステーション回収により実施。	高崎
・ステーション方式。	熊本
・本県唯一、生ごみ分別専用用袋で出している。	熊本
・生ごみ専用袋(生ごみ専用プラスチック製)を使用し、週2回収している。	熊本
・週2回、燃えるごみと同日に収集している。	熊本
・回収又は処理場のビニール袋へ入れ替り、燃やしの集。	大分
・町の指定袋で、燃やしのステーションから収集を実施している。	宮崎
・生ごみの処理化事業は、平成17年度から実施。各家庭へ生ごみ保管用の水切りバケツを無料配布し、週2回地域のステーションに出してもらい、ステーションには貸出用のバケツを常備してある。	宮崎
・ステーション(183箇所)回収で生ごみ専用バケツを設置している。	鹿児島
・委託業者が回収し、燃焼センターへ持ち込み焼却化。	鹿児島
・各地区に委託し、週2回生ごみ等の収集を行っている。生ごみについては、生ごみ処理機で処理し燃焼している。	鹿児島
・週2回指定生ごみへ名前を書いて出す。	鹿児島
・増肥化。	鹿児島
・生ごみの分別収集を自治体のゴミステーションにおいて実施(平成16年度より)。	鹿児島
・本県唯一の収集頻度として、週2回回収している。	鹿児島
・生ごみは、バケツでの回収を行っている。	沖縄

4

[https://kyushu.env.go.jp/recycle/data/091221a\\_1.pdf](https://kyushu.env.go.jp/recycle/data/091221a_1.pdf)

《考えられる生ごみの回収方法》

- ①臭わない生分解性プラスチックの生ごみ専用袋での回収
- ②生分解性プラスチックの生ごみ専用袋→各家庭生ごみ専用バケツ(※)での回収
- ③各家庭生ごみ専用バケツ(※)での回収
- ④各家庭では各々何かにまとめてもらい、ステーション回収

※ここでイメージしているバケツは、おむつBOXとして蓋をして使用すると臭わないオムニウツティのような物



<https://komono.me/68371>

	メリット	デメリット
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異臭や虫の発生を防ぐ</li> <li>・家庭での収集の手間が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専用袋が高価？</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での収集の手間が少ない</li> <li>・収集場所まで持って行きやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バケツを置くスペースを取る</li> <li>・バケツの中は異臭がする</li> <li>・バケツの購入費</li> <li>・専用袋の購入費</li> <li>・バケツの大きさによっては重い</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既に生ごみ処理機を活用している人にとっては、完成した堆肥をバケツに入れるだけで済む</li> <li>・収集場所まで持って行きやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バケツを置くスペースを取る</li> <li>・バケツの中は異臭がする</li> <li>・バケツの購入費</li> <li>・バケツの大きさによっては重い</li> <li>・生ごみからの水分で汚れるためバケツを洗う必要がある</li> <li>・三角コーナー</li> </ul>

		のネットなどからバケツに移す手間がある
④	・バケツの購入費や専用袋の購入費はかからない	・バケツや専用袋を購入する代わりに、収集のための物が必要

どれか一つに決めるのではなく、選択制をとるなど柔軟な対応ができると良いかもしれません。

他にも、どこで集めるのか、集める場所にごどのようなものを置くのか(臭い対策はとれているのか)等、問題は多くあると思います。ちなみに千葉県には生ごみをバイオガス化させる回収箱があるそうです。

#### 市川市 生ごみを分別しバイオガス化



提供：東京新聞（2020.10.28付）24時間OK ICTで生ごみ回収箱 市川市が試作 数年後に300基予定  
千葉県市川市が実証実験を行う生ごみ回収箱（東京新聞の記事を基に株式会社office 3.11作成）

<https://news.yahoo.co.jp/byline/iderumi/20210530-00240328>

堆肥として活用するのであれば、相当な量になると思います。町内の小中学校の花壇や地域の花壇の他に、コロナ禍で園芸を新しく始めている人などへ育てやすい野菜や果樹などの苗と共に堆肥を無料配布する等、方法は数多くあると思います。相当な時間と労力がかかってしまうと思いますが・・・。

2	<p>《環境教育・キャリア教育との関わり》</p> <p>ごみについて家庭で考えるきっかけとして、教育現場に出向き、総合的な学習の時間を活用する方法もあると思います。常滑市の鬼崎北小学校では例年5年生で、常滑東小学校では例年4年生で環境についての調べ学習を行っています。(学習内容が変わる年ももちろんあると思いますが)高学年の総合的な学習で環境について学ぶ小学校は多くあると思います。しかし主な調べる方法は市立図書館で本を借りたりインターネットで調べたりする方法で、ざっくり温暖化について、絶滅危惧種について、酸性雨について、ごみ問題についてと調べても自分事として考えられていないように感じました。そんな中、鬼崎北小学校に勤めている際、ある大学の教授の方から研究の協力依頼がありました。絶滅危惧種のコアジサシについて子どもたちにアンケートと講演を行いたいというものでした。事前指導・アンケートで1時間、講演・質疑応答で2時間、事後指導・お礼の手紙で1時間の合計4時間でしたが、常滑の海岸にも来ていたコアジサシが近年減少していて、それに対するボランティア活動なども紹介していて、子どもたちには強く印象に残ったようでした。調べ活動のまとめの新聞にその内容を入れている児童も多くいました。</p> <p>生ごみが分別されていない現状を自分事として考え、行動するきっかけを与えるには、学校現場の教職員のみでなく、企業などで働いたり専門的に環境問題と関わったりする大人たちからのアプローチも必要だと思います。</p> <p>キャリア教育としての観点で考えると、企業の環境活動紹介や環境に配慮した商品の</p>	<p>《環境教育・キャリア教育との関わり》については、学校や地域などの場を活用した環境学習や町民や事業者に対しての情報発信を進めていくにあたって、ご意見を参考とさせていただきます。</p>
---	---	--

説明, 開発や研究内容の紹介だけでも環境教育になりますし, 実際に働くということをイメージする児童もいるかもしれません。私も20年ほど前に旭硝子工場の見学をしましたが, 強化ガラスの強度を示す体験として強化ガラスに野球ボール? を投げつけても割れないという経験をさせてもらった記憶があります。子どもの頃の経験は強く記憶に残ります。

身近な省エネ行動による削減

取組の内容	1年間の削減量の目安	
	消費電力	熱量
冷蔵庫：設定温度を「強」から「中」にする	62kWh	0.22GJ
冷蔵庫：ものを詰め込みすぎない	44kWh	0.16GJ
エアコン：夏の冷房時の室温を27℃から28℃にする	30kWh	0.11GJ
エアコン：冬の暖房時の室温を21℃から20℃にする	53kWh	0.19GJ
エアコン：冷暖房は必要ときだけつける	60kWh	0.22GJ
エアコン：フィルターを月に1回か2回清掃する	32kWh	0.12GJ
電気製品を使わないときはコンセントからプラグを抜く	112kWh	0.40GJ
電気便座：使わないときはふたを閉める	35kWh	0.13GJ
電気便座：設定温度を「中」から「弱」にする	26kWh	0.10GJ
テレビ：見ないときは消す(1日1時間見る時間を減らす)	17kWh	0.06GJ
テレビ：画面の輝度を「最大」から「中間」にする	27kWh	0.10GJ

出典：家庭の省エネ徹底ガイド(資源エネルギー庁)より愛知県環境部作成

## あいち地球温暖化防止戦略2030

(本冊・1/2)

[https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/294382\\_1086824\\_misc.pdf](https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/294382_1086824_misc.pdf)

このような省エネ行動の呼びかけも, アンケートにしたり家庭での実施項目にしたりすることで, 子どもからのアプローチにより行動に移しやすい家庭も多いと思います。

畑や田んぼが多くあった実家の周りも家やアパートが建ち並び, 車の数も増えたなど感じます。堆肥として畑に使っていた生ごみもゴミ箱へ捨てる家庭の方が多くあると思います。知識の乏しい者が好き勝手に意見を書き連ねましたが, 未来の武豊町の発展のために温暖化防止対策の手段の一つとして検討いただければと思います。

3	<p>「武豊町・地球温暖化対策実行計画への提言」</p> <p>2021年2月に発表された武豊町の「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」宣言に敬意を表します。世界では、2年間にわたる「コロナ禍」を経過し、元のような成長本位の経済に戻るのではなく、「グリーン・リカバリー」の流れを目指す国が増えています。</p> <p>日本政府も、2021年4月に炭素排出量を2030年度に2013年度と比較して46%の削減を行い、10月には「エネルギー基本計画」において、2050年に温室効果ガスの排出を実質ゼロにする。すなわちカーボンニュートラルを目指す」との宣言がありました。この目標は、「パリ協定」での先進国の目標としては極めて低いものあるのですが、この課題は政府や環境省でなく、各自治体や、企業・団体、多くの市民の参加がなければならない課題です。</p> <p>武豊町は、愛知県下の市町村の中でも早くから「カーボンゼロシティ」宣言を行い「住みやすい町」づくりをめざしています、同時に企業、家庭において費用の低減が図れたら、現に住んでいる町民にとっても、安心・安全なまちづくりになると期待できます。そういう意味からもこのような「パブリックコメント」で市民の声を聴くことを歓迎します。</p> <p>1,自治体の取り組みへの提案</p> <p>この計画は、まず自治体から始めることが大切で、それを企業や家庭へと普及していくことによって、点から線、面へと広がるのが期待されます。町民の「温室効果ガス排出」が気候変動、気候危機を招いていることに</p>	
---	---	--

	<p>いての関心が低く、特に二酸化炭素（CO2）は気体であり目に見えないことにより直接的に考えが及ばないこともあると考えられます。</p> <p>1 ① 自動車の排気ガスを減らし環境をよくする課題は急務です。公用車の燃料の節約だけでなく、武豊町のすべての公用車・コミュニティバスを電気自動車（EV）に切り替えることを提案します。そのために中期計画（2022～2024年の3年計画）をもち、早急に切り替え、町内のEV化を促進させてください。家庭の電気自動車の購入について、基準を設けて町から補助金をだしてほしいという声もあります。検討してください。そのために、道の駅、役場、公民館、町民会館、農協など公的な場所や民間の車の出入りが多い場所に充電する場所（スタンド）の確保が必要です。</p> <p>2 ② 武豊町の土地、施設、設備（例えば建物の壁面の含めて）などに太陽光パネルの活用を図ってください。遊休地に太陽光パネルが可能かどうかの調査を行い、広大な土地で可能であれば、武豊町直轄の「太陽光発電所」を作り、町内の役場、公民館、ゆめだろう、小学校、中学校、給食センターなどの電力の電気をどの程度まかなえるのか調査、研究を行ってください。また、「ゴミ焼却場」の焼却熱を利用した電化についても検討されることを提案します。</p>	<p>①公用車については今年度、給食配送者が1台EVに切り替わったほか、来年度にはコミュニティバス1台が切り替わる予定であり、今後も順次次世代自動車への切り替えを図っていく予定です。</p> <p>次世代自動車購入費への補助については、現在、来年度からの制度開始を検討しております。</p> <p>充電スタンドについては、民間事業者とも連携しながら、電気自動車の普及にあわせた計画・整備を進めていきます。</p> <p>②来年度以降、町が率先して再生可能エネルギーを導入していくため、主に公共施設の屋根への太陽光発電設備の設置可能性の調査を行いたいと考えています。</p> <p>ごみについては、令和4年4月から、半田市、常滑市、南知多町、美浜町、武豊町の2市3町で構成される広域南部広域環境組合の「知多南部広域環境センター」において焼却を行い、蒸気のエネルギーでタービンを動かし発電を行う予定です。発電を行う予定です。</p>
--	--	--

3	<p>③ 農地を太陽光パネルに転換する場合は、新しい技術の紹介や「協同組合化」をはかり、南知多町で起きたような地域住民との話し合いがないままの「乱開発」などが起こらないように、「ガイドライン」ではなく「条例」の制定を行うことを提言します。武豊町内での太陽光パネルの可能地域、不可能地域などゾーンを設定することも重要です。この件に関しては、「農業協同組合」の組合員とも情報を交換し、組合の組織力を生かしていくことが大事だと考えます。</p>	<p>③条例化の必要性については、他市町の動向も注視しながら調査、研究を進めていきます。</p> <p>また、農業協同組合との情報交換については、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
4	<p>④ 武豊町の「街灯」のLED化を早急に図ってください。武豊町の「街灯」はまだ不足していると考えますが、新しい「街灯」はLED化を図り、古い街灯は計画的に取り換えることによって電力消費量を減らしていけると考えます。2022年中にすべての公共施設（役場、公民館、小学校、中学校、ゆめたろう、給食センターなど）の電気のLED化を行うよう提案します。</p>	<p>④武豊町が設置している街灯（防犯灯）につきましては、全てLED化しております。また、公共施設の電気のLED化については、武豊町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）でも推進すべき取り組みとして記載されており、今後も計画的に切り替えを進めていく予定です。</p>
5	<p>⑤ 武豊町の畜産、養鶏業者あるいは農家から発生するメタンガスの臭気を解消しながら「電力」として活用できる技術が開発されています。神戸の弓削牧場ではこのようなメタンガス解消法をとっている経験をネットで見ることもできます。町としても開発を導入するために援助し、町の財政にもプラスになるような事業として研究してみてもどうかと思う。臭気に対する解決法ともなります。</p>	<p>⑤畜産のふん尿をメタン発酵によりバイオガス化し、電力として活用する取り組みが県内でも民間レベルで始まりつつあります。国や県などと情報共有、連携しながら調査、研究を進めていきます。</p>

	<p>6 ⑥ 役場の環境課、その他公共施設等に「地球温暖化対策相談窓口」をつくり、家庭用の太陽光パネル、住宅建築の暖房などの省エネ化、断熱化の対策、バイオマスの処理等の相談にのることも検討してください。 環境課に「地球温暖化」「気候変動」「省エネ、再エネ」などの資料を展示し、閲覧できるように町民にこの取り組みを「見える化」をはかることが重要です。</p> <p>7 ⑦ 「図書館」に「地球温暖化」「気候変動」のコーナーを設け、小中学生への授業でもとりあげ、「省エネ、再エネ」への関心を高めることも必要であるとする。</p> <p>8 ⑧ 武豊町が着手した取り組みは、広報「たけとよ」で、毎月、特集を組み、すべての家庭での省エネ、再エネ活動の参考になるような普及のきっかけを作ってください。</p> <p>2, 企業の取り組みへの援助、協力などについての提案 企業の意識調査アンケートでは、関心を持っている企業が多いという結果になっていますが、アンケートに回答していない企業も含</p>	<p>⑥「地球温暖化対策相談窓口」の設置は現時点で考えておりませんが、家庭での取り組みを進めていくことは非常に重要な取組であると考えます。そのため、インターネットや広報誌など様々なメディアを活用し、家庭での脱炭素型ライフスタイルや住宅の省エネ化や再生可能エネルギーの導入などに関する普及啓発や情報提供を積極的に進めていきます。</p> <p>⑦学校や地域などの場を活用した環境学習や町民や事業者に対しての情報発信を進めていくにあたって、ご意見を参考とさせていただきます。</p> <p>⑧家庭での取り組みを進めていくことは非常に重要な取組であると考えます。そのため、インターネットや広報誌など様々なメディアを活用し、家庭での脱炭素型ライフスタイルや住宅の省エネ化や再生可能エネルギーの導入などに関する普及啓発や情報提供を積極的に進めていきます。</p>
--	---	--

	<p>めてこの「計画」に参加してもらう必要があり、引き続き、繰り返し働きかけを行うことが大切であると考えます。</p>	
9	<p>① 民間の企業が「カーボンニュートラル」の取り組みが進むよう、相談、援助、結果の広報などを積極的に行うことを役場から発信することが大事です。</p>	<p>①～③ 本計画では、企業の脱炭素経営の推進を図るため、中小企業向けの省エネ相談や情報提供、再生可能エネルギーの導入に向けた普及啓発、大規模排出事業者との情報共有の仕組みの構築などを進めていくこととしており、国、県、事業者と連携を図りながら、本町の脱炭素化に向けた取組を進めていきます。なお、町内全ての企業において削減目標が設定されているわけではないことから、まずは町全体での産業部門における削減目標を掲げて取組を進めたいと考えています。</p>
10	<p>② 民間企業は、グローバルな動きに対応すべく、様々な対応策に取り組んでいます。最近は、すべての業種で加速度的に「地球温暖化に対応した計画」の有無が問われるような状況になってきています。武豊町として「産業部門、業務その他部門、運輸部門」など「家庭」以外の部門での温室効果ガスの削減の取り組みに主体的に取り組めるよう、町としての啓発、援助を行う。</p>	
11	<p>③ 「武豊町地球温暖化対策実行計画」の中に地域の企業の二酸化炭素排出削減の目標を組み込み、計画的に削減するよう求めていくことは重要です。単に部門全体の目標に加えて、各企業の取り組みの総和を目標に組み込めるような設定を検討してください。</p> <p>3, 電力分野での取り組み 武豊町は、今年「J E R Aの武豊火力発電所」の稼働の年であり、知多南部広域環境組合のゴミ焼却場も稼働を開始する重要な年となりますが課題は多いと考えます。</p>	
12	<p>① 火力発電所 火力発電所から排出される二酸化炭素は温室効果ガスのなかでも大半を占め、最大の気候温暖化の原因になっていることは明らか</p>	<p>本町としては、特定の事業者の事業活動を本計画で取りあげることが想定していません。事業者においてはP 2 6 に示すと</p>

	<p>です（資料7）。世界的にも石炭火力発電所が大きな問題となっています。</p> <p>「武豊町地球温暖化対策実行計画」では、エネルギー転換部門（発電所等）の温室効果ガス排出量は、「特に、把握が望まれていない」（p32）となっていますが、厚生労働省の「地方公共団体実行計画策定・実施マニュアル」では、エネルギー転換部門でのエネルギー起源CO<sub>2</sub>は、「可能であれば把握が望まれる」（p53）となっており、「把握が望まれていない」わけではないと考えます。温室効果ガス削減の計画では、統計上では5つの部門分けて計上されていますが、CO<sub>2</sub>が排出されていることは、火力発電所の電気の出力、燃料の種類、年間燃料消費量、煙突から排出される排出物の種類などで「把握は可能である」と考えます。把握するように変更してください。</p> <p>既存の火力発電所（2機）とは「協定」を結び、武豊町の削減目標に合致する様に排出量の削減、その結果の公開、新たな技術の開発の進展状況の報告、町民への説明、2030年までの見通しなど地域住民に対し納得いく説明が必要と考えます。</p> <p>新しく稼働する予定のJERA武豊火力発電所については、建設開始以降の世界的な気候変動の動きの最中の、2018年から建設工事が始まりました。2018年は、IPCCが、「1.5度C特別報告」を行った年であり、また日本では西日本での記録的な豪雨、熱中症では全国で1500人が死亡するなど地球温暖化の影響が突出してでた年でもあります。何故、石油や天然ガスでなく石炭火力発電所なのか、2021年度の「二酸化炭素排出削減目標」との整合性が取れているのかどうか、当時の事情と今日の事態との</p>	<p>おり、脱炭素化に向けた戦略のもとで様々な対策を進めているところであり、本町としても、国、県、事業者とも連携を図りながら、脱炭素化に向けた取組を進めていきます。また、企業の脱炭素経営の推進を図るため、大規模排出事業者との情報共有の仕組みを構築していくこととしており、その中で必要に応じた働きかけも行っていく予定です。</p> <p>なお、火力発電の燃料使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量は、生産者（火力発電所）ではなく、その電力を使用する消費者からの排出として各部門に計上されます。</p>
--	---	--

	<p>違いについて、株式会社J E R Aの重要なステークスホルダーである、利用者でもある地域住民に丁寧な説明が必要であると考えます。</p> <p>2-4号機が石油であり、5号機が石炭になったこと理由。武豊町との間で結ばれておる旧火力発電所との「協定」を見直しが必要でないかと考えます。以上の説明がなされないままの「武豊石炭火力発電所」の稼働はありえないと考えます。武豊町民への説明抜き稼働はしないように提言します。</p> <p>13 4, 家庭での取組の促進</p> <p>家庭での取り組みは「省エネ」として毎日の生活の中で、各家庭で努力されていると重要な取り組みであると考え。自治体として、「地球温暖化対策実行計画」としては、その取り組みの紹介、技術的な支援、財政的な援助などを積極的に行い、「広報」していくことが最も重要であると考えます。</p> <p>①ごみ、対策 ②バイオマス ③電気、ガス ④暖房、断熱（新築、改築） ⑤太陽光発電（屋根や壁）・・・2014年に補助金廃止。2022年度の再開。 ⑥建築（断熱材、薪ストーブ）・・・ ⑦車の買い替え（EV車）</p> <p>【家庭での取り組みの実例】</p> <p>私が取材した、武豊町多賀4丁目の、〇〇さんのお宅では、10年前に、屋根に30個ほどの太陽光発電のパネルを取り付け、屋内は、薪ストーブ(アメリカ製)で暖房をとっているために、環境対策ではずいぶん貢献され</p>	<p>家庭での取り組みを進めていくことは非常に重要な取組であると考えます。そのため、インターネットや広報誌など様々なメディアを活用し、家庭での脱炭素型ライフスタイルや住宅の省エネ化や再生可能エネルギーの導入などに関する普及啓発や情報提供を積極的に進めていきます。</p> <p>また、補助金については、住宅用地球温暖化対策設備設置費に対する補助制度の来年度からの開始を検討しております。</p>
--	--	---

	<p>ています。</p> <p>太陽光パネルについては、「JA太陽光発電所認定書」を見せていただきました。環境貢献度、1年間で183本分のCO2削減貢献と書かれています。</p> <p>実際、2021年10月の電気代は、中部電力ミライズから、195KWh、5,706円の請求が来ていますが、同じ中部電力ミライズから、再生可能エネルギーからの電力量契約で、15,960円(300KWh)の入金があり、約1万円の黒字となっています。</p> <p>個人の家太陽光パネルについては、最近、中部電力ミライズは、設備を設置するときの費用について補助を出すことを具体的に進めています。</p> <p>武豊町としても、これを促進するためにも補助金を出すことを提案します。</p>	
--	--	--

4	1	<p>武豊町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）1</p> <p>町全体の CO2 発生量が約705千tこの発生量に対して、石炭火力発電所からの CO2 発生量は約8000千tとも言われています。町内全発生量をゼロとしても、町内全体でいえば10%程度の削減にしかありません。火力発電所などは国の管轄であるという考えのようですが、武豊町として、国・県・J E R A に対しても積極的に CO2 削減を求めていくことが、地球温暖化対策として、武豊町での CO2 削減を考えた場合大変重要な課題ではないですか。</p> <p>町独自の取り組みをすることが必要と考えます。</p>	<p>本町としては、特定の事業者の事業活動を本計画で取りあげることが想定していません。事業者においてはP26に示すとおり、脱炭素化に向けた戦略のもとで様々な対策を進めているところであり、本町としても、国、県、事業者と連携を図りながら、脱炭素化に向けた取組を進めていきます。また、企業の脱炭素経営の推進を図るため、大規模排出事業者との情報共有の仕組みを構築していくこととしており、その中で必要に応じた働きかけも行っていく予定です。</p> <p>なお、火力発電の燃料使用に伴うCO2 排出量は、生産者（火力発電所）ではなく、その電力を使用する消費者からの排出として各部門に計上されます。</p>
	2	<p>武豊町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）2</p> <p>P38住まいでできる CO2 削減のための行動〈普段の行動〉で約940kg削減(18項目を毎日実行)、〈家電や設備など〉で8項目、現在の家庭経済状況でどれだけ購入可能なか疑問である。</p> <p>旧型の電化製品では、元電源を切ることで、時間合わせが必要となるものもあり、問題点も多い。これらのことも考慮の上での行動を求めているのか疑問である。</p>	<p>普段の行動については、エネルギー消費の無駄をなくすための今すぐできるちょっとした取組を中心に掲載していますが、全ての取組を強いるものではなく、この中からできることを各自の生活にあわせて取り入れていくことを促しています。また家電や設備などについても、全ての製品を今すぐ買い換えることを勧めるものではなく、更新のタイミングなどにあわせた賢</p>

	<p>計算上の削減目標であり、実行困難であると思われるような目標ではなく、どのような実施（行動）に取り組むのか、もっときめ細かな提案が必要と思います。また、家電等の購入費用に対してどのような助成があるなどの、行政の姿勢も明確にする必要があるのではないかと。</p>	<p>い選択を促しているものです。以上の考え方がわかるよう、下記の記載を追加します。</p> <p>P38「この中からそれぞれの生活にあわせて取り組めることを賢く選択し、CO2削減につなげてみませんか。」</p> <p>また、補助金については、住宅用地球温暖化対策設備設置費に対する補助制度の来年度からの開始を検討しております。</p>
--	--	--